

授業づくり	重点	問題解決型学習の展開、児童による課題づくり、児童相互の学び合いを中心とした主体的・対話的で深い学びをつくる指導方法の在り方を探る。	中間評価	学力テストでは技能、理解面では良好な結果であった。今後は児童の基本的な学力の向上や、授業への関心・意欲がさらに向上するような指導方法の検討が必要である。	最終評価
		UDに配慮し、全ての児童が主体的・対話的で深い学びを行うことができる学習基盤をつくる。学習・生活ルールを統一し、全ての児童が安心して学習に臨めるようにする。		UDへの配慮や「戸スタンダード」による学習のルールを一層徹底していく。児童が学習に取り組むことができる環境をつくるためにも教員間の共通理解を高める必要がある。	

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組み (10月)	最終評価 (2月)		
1	国語	<p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> 平仮名は、ほとんどの児童が読むことができるようになったが、音読に差がある。 文章を書くことに慣れ、書くスピードも速くなってきた。 漢字の学習が始まり、楽しんで学習しているが習得状況に差がある。 話したいことをみんなの前で話せるようになってきたが、聞くことに課題のある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読は、すらすら読める児童がいる一方、拾い読みをする児童もいる。 書きたいことを、文章に書き表せるようになってきたが、「は」「を」「へ」の使い方を始めとして、拗音、長音など、誤字脱字が多い。 文の中での漢字の使い方が間違っていたり、漢字を使わないでひらがなで書いてしまったりする。書ける漢字も、文字の形が、きちんととれない児童がいる。 話している人の方を向いて聞いたり、話を最後まで聞いたりすることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読は、家庭学習だけでなく、各教科で声に出して読む練習をする。 各教科の振り返りなど、文章を書く活動をなるべく毎時間行うようにする。また、学校行事等の体験を文章に表わし、それを互いに読み合うことを通して、適切な文章の表し方を身に付けられるようにする。MIM-PMを毎月実施し、児童の習得状況を把握し、必要に応じて個別に指導をする。 家庭での漢字学習で文章を使って書く練習を必ず取り入れる。また、書写の時間を通して、「とめ」「おれ」「はね」「はらい」に気を付けて書けるよう指導する。 聞くときに気を付けることを具体的に示し、しっかりと聞く態度を指導する。 			
	算数	<p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> 10以内の加法や減法、繰り上がりのある加法については、大体の児童が理解できている。 既習の学習を生かして計算の方法を考えたり、説明したりすることができるようになってきた児童もいるが、課題のある児童もいる。 単純な計算はできるが、問題文を読み取り、式にする力に大きな差がある。 かさくらべなどの学習では、生活経験の不足が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算は、ほとんどの児童ができるが、速さに差がある。 計算の方法などを、操作や言葉などを用いて説明することを苦手としている児童がまだ多い。 文章を読み取り、聞かれていることを式にできる力に大きな差がある。 大きさの異なる容器に入れた水の量の比べ方など、授業で体験しても身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習も含めて、ドリル練習を行う。 考え方の説明の仕方を具体的に示す。また、ペア学習などで自分の考え方を、伝える経験を積ませる。半具体物やICT機器等を利用し、児童が自分の考えを発表する機会を設ける。 アンダーラインを引かせるなどして何を聞かれているのかを明確にするようにする。 体験活動を算数でも十分にを行う。 			
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組み (4月)	中間評価・追加する取組み (10月)	最終評価 (2月)	
2	国語	<p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> 思ったことや考えたことを、整理して話すことがまだ十分ではない。 例文を参考にして文章を書くことができている。書きたい意欲はあるが、主語・述語が整ってなかったり、促音等の使い方がまだ十分でなかったりする児童が多い。 1年生の2学期から、読み書きのアセスメント指導(MIM)を行っているが、身に付けている語彙はまだ少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを整理して、相手に分かりやすく、根拠をもって相手に伝える力を身に付けること。 主語、述語を明確にし、相手に分かりやすい文章を書く力を身に付けること。 登場人物の気持ちや様子を、文章の表現に沿って読み取る力を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 話すことを文章に書いて、自分の考えを整理して話し合いや発表に臨む活動を取り入れる。 書く力の基礎を身に付けさせるために、マス目用紙を使った視写を行い、文を書く形式を身に付けられるようにする。 読み書きのアセスメント指導(MIM)や、言葉遊び、名文などの音読や視写を行うことで、語彙を増やし豊かにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に話す内容をまとめて話せるようになってきた。理由の言い方や順序良く話すための話型を身に付けられるようにする。 主語と述語がねじれていないかを意識させ、書いたものを読み直すよう指導する。 語彙力をさらにつけるために、読書の時間には語彙力、読解力のつく本を薦める。 		
	算数	<p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習への意欲は高い児童は多いが、自分の考えを発表できる児童は少ない。 足し算・引き算の計算技術を身に付けている児童が多い。しかし、長さやかさ、時間などの学習では理解に差がある。 自分の考えを図や言葉で表現することに、課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えに自信がなく、発表できない児童がいる。 長さやかさ等、経験の違いによる理解力の差が見られる。 自力解決の場面において、自分の考えを言葉や図を用いて分かりやすくまとめたり、説明したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで自分の考えを友達に発表する活動を取り入れる。 様々な数量や時刻の理解を深めるために、自分の生活に結び付くような体験活動を取り入れる。 分かりやすい図や表の書けている児童を紹介し、よりよい図の書き方が身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ペア、グループ活動では、自分の考えを発表できるようになってきたので、全体の前で発表できるように進めていく。 かさ、時間の感覚を身に付けるのが難しいので、日常生活の中で取り入れるように指導していく。 図を描けるようになってきた児童が増えてきた。友だちの考えを見ながら良い点を見つけて全員が書けるようにしていく。 学習したことが、しばらくすると忘れてしまうので、家庭学習などで繰り返し復習し定着するようにする。 		

3	国語	<p>調 新宿区学力調査の結果では、全体としておおむね良好である。物語や説明文で、人物の気持ちや様子を読み取る力がついてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方で、基礎的な言語事項の習得に課題が見られた。漢字を正しく読んだり、ふさわしい言葉を使ったりする力に伸びしろがある。 <p>学 国語の学習に対して、意欲的な児童が多い。文章や文字を書くことに対しても抵抗感を感じずに、進んで取り組むことができる児童が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方で漢字を書くことや、正しい言葉使いで文章を表現する力に課題をもつ児童が少なからずいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字や新出漢字を字形や送り仮名に気をつけながら正しく書く。 自分の考えを整理し、言葉の使い方に気をつけながら、相手に分かりやすい文章を書く力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に漢字の習熟を確認する小テストを行う。また、実施後は、誤答について練習をして、再度テストを行い、自己の習熟度の高まりを実感できるようにする。 推敲指導に重点を置き、自分の書いた文章を振り返る習慣を身に着けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字50問テストに向けて漢字練習を行っている。50問テストを実施すると満点を取ることができ、児童の達成感が高められている。しかし、問題が変わると誤答が増えるため、様々な例文を用いたテストも行っていきたい。 推敲のポイントを児童とともに考え決めることで、必然性をもって推敲に取り組めるようにしている。また、推敲の段階で、児童同士で文章を読み合い、感想を交流することで、「相手に伝わる文章作り」を目的に取り組めるようにしている。
	算数	<p>調 新宿区学力調査の結果では、全体としておおむね良好である。計算の力がある程度身につけている児童が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方で、数量や時刻などの知識理解が十分身につけていないことが学力調査の結果に表れている。 <p>学 算数の授業自体への取り組みの姿勢から、学習意欲が高いことが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方でかけ算九九の計算や、時刻や量など基本的な内容に対する苦手意識をもつ児童が多く、基礎・基本の習熟が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 量と測定の領域、特に長さや、かさに関する領域の知識理解の醸成。 かけ算九九や長さやかさの量感、単位についての理解など、基礎・基本の習熟。 	<ul style="list-style-type: none"> わり算やかけ算の筆算など、かけ算を扱う単元での九九の反復練習の習慣化。 量感を養うために、日頃から長さや、かさについての問いかけを行う。 苦手意識のある単元では、既習事項の復習の時間を設けたり、ドリル学習を行ったりして基礎基本の習熟を図る。 「東京ベーシックドリル」を活用し、既習内容に関する自己の苦手とする領域を児童自身が認識し、課題意識をもって、基礎・基本の習熟のために学習を進めようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に用いる単位とそうでない単位があり、使用頻度が単位によって異なってしまふ。小テスト形式など、取り組んだ問題が形として残ったり振り返りを行ったりできるようにする。 苦手意識のある児童に対して、授業の導入時に、問題練習に取り組む時間を設けたり、系統から見た前段階の学習の復習を取り入れたりしている。
4	国語	<p>調 昨年度の新宿区学力調査の結果は、おおむね良好である。領域別平均正答率を見ると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では十分な成果が見られた。一方で、「書くこと」の漢字の読み書きと作文については課題が見られた。</p> <p>学 物語の学習に意欲的に取り組む児童が多く、登場人物の気持ちの理解など、文章の記述を読み取ることが得意な児童が多い。一方で、学んだことや自分の考えを文章にして表現することについて課題のある児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 習った漢字や語句をテストで書いたり、日々のノート記述で活用したりすること。 学習のまとめや自分の考えを分かりやすく文章で記述すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟を図るテストを定期的に行うことで、漢字の読み書きの力の定着を図る。また、語彙力の拡充のため、国語辞典や漢字辞典を活用できる学習環境や場面を設定する。 学習の振り返りを記述するポイントについて指導したり、授業で学んだことや話し合ったことをたしかめる時間を設けたりすることで、どの児童にとっても表現しやすいようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ドリルでの学習に継続的に取り組むことで、ミニテストの達成度が上がりつつある。国語辞典をすぐに活用できるようにし、語彙力を高める。 書く活動を行うときには、形式を提示することで、どの児童も自分の考えや意見を表現することができるようになってきた。また、友達と比べたり、参考にしたりすることで、自分の考えを整理したり、分類したりすることができつつある。
	算数	<p>調 昨年度の新宿区学力調査の結果は、おおむね良好である、特に「数と計算」「量と測定」「図形」では良好であった。一方で「たし算・ひき算」には課題が見られる。</p> <p>学 算数への学習意欲は全体的に高く、問題解決的な学習の流れには慣れている。かけ算等の基礎的な知識や、文章問題の題意を読み取り、適切に解いていくことに課題のある児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりや繰り下がりを理解し、適切に処理すること。 文章問題の題意を的確に読み取り、解くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> くりかえしドリルや東京ベーシックドリル等を活用し、習熟度に応じた課題を取り組めるようにする。 日々の家庭学習で定期的に計算問題を出すことで、基本的な四則演算の力が向上するようにする。 文章題を苦手とする児童には題意の確認を行うと同時に、立式や答え、単位等の見直しができるよう言葉がけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に計算ドリルの学習に取り組み、同じ問題でも早く正確に解くことができるようになってきた。定期的にベーシックドリルに取り組み、自分の課題に合わせて学習を進めている。 復習を中心とした計算プリントに取り組み、ミニテストでの達成度が向上した。 文章題の題意を整理し、ICTを活用して式の意味を視覚化して提示することで、何を訊かれているのかを自分なりに明確にして解くことができるようになってきた。

5	国語	<p>調新宿区学力調査の結果では、たいへん良好な状況である。特に、「漢字を読む力」「大切な情報を読み取る力」については、日常的な取り組みの成果が表れた。一方で、「聞いた話の要旨を捉える力」では課題が見られる。</p> <p>学学習に対して意欲的に取り組もうとする児童が多い。一方、話を聴く姿勢が十分に整っていない児童も見受けられる。学力テスト上では漢字を書くことに高まりが見られたが、日常の学習ノート等では習得した漢字を使用しない場面や、誤字も多く見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習において、漢字の学習を毎日行い、漢字の書き取りの力を高めること。 学習した漢字の日常的な活用を行うこと。 文学的文章の読解を通して、登場人物像やその関係性、主題を読み取る力を向上させること。 説明的文章の読解を通して、要点を的確に捉え、要旨をまとめる力を向上させること。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストを定期的実施したり、家庭学習と連携した取り組みを行ったりするなど基礎・基本の定着を図る。 「平成30年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果では、A・B問題ともに東京都の平均を10ポイント近く上回り、学力の定着が見られる。 文学的文章では、物語の設定を的確に読み取ることができるように、いつ・どこ・誰を全員で確認しながら読むなど、読みの構えを作る。 説明的文章では、各形式段落の要点を捉える学習活動を取り入れ、そこから要約、要旨へまとめる活動につなげていくなど、段階的に小さなステップで取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「平成30年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果では、A・B問題ともに東京都の平均を大きく上回り、学力の定着が見られる。 新出漢字の習得や練習を、学期ごとのカレンダー一覧で示すことで、児童が見通しをもって自主的に漢字練習に取り組むことができた。 様々な種類の読書に取り組めるよう促し、語彙力や想像力を高める。 調べたことを決められた時間内で発表する常時活動を取り入れ、話す力、聞く力ともに高める。 要点、段落指導用教材を活用し、説明的文章の読解力向上に向けて取り組む。
	算数	<p>調新宿区学力調査の結果では、おおむね良好な状態であるが、「面積」で課題が見られる。また、領域別に見ると、「量と測定」に課題が見られる。ふたのない立体の展開図を基にして、面積を求める問題では誤答が多かった。</p> <p>学学習には意欲的に取り組んでいるが、問題解決のために友達と協働的、対話的な学習を行っていくことに不慣れな様子が見られる。問題が解くことができても、問題を解いたときの自分の考えを説明したり、友達に教えたりすることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面積や体積を求める際、様々な考え方や図形の見方を養うこと。 図形の捉え方を身に付けること。(垂直・平行の四角形) 友達との学び合いの際に自分の考えを分かりやすく書いたり説明したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「東京ベーシックドリル」をはじめとした基礎、基本の定着を図る取り組みを継続して実施する。 記述式の解答に答えるための表現力を育成するため、言葉、数、式、図、表、グラフ等を用いて、自分の考えを友達に説明する活動を、授業の中に位置付ける。 児童が友達に説明したいという意欲を高められるよう、課題提示の内容や方法を工夫したり、発展的な課題を取り入れたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「平成30年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果では、A・B問題ともに東京都の平均を上回り、成果が見られる。 授業で学習した箇所を計算ドリルですぐに復習し、数日置いて再度計算ドリルを使って復習することで定着が高まりつつある。 問題に対し、自分で考える「自力解決」の時間を設定し、思考、交流時間を活用して様々な解法を学び合うようにする。 コースの実態に応じた授業展開を工夫し、発展的な問題への挑戦、ICTの活用、既習事項の振り返りミニテスト等を取り入れる。
6	国語	<p>調新宿学力調査の結果では、活用面において、大きく伸びが見られ良好な状況である。問題解決的な学習の取り組みの成果が出ていると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 領域別に分析すると、「読むこと」の領域については、基礎と活用で課題が見られた。 <p>学学習や読書活動には意欲的に取り組んでいる。読み取ったことを基に、自分の考えなどを書いて表現することに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読む力の基礎基本の習得。 読みとったことを生かして、感想文や意見文などを書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、要点を正しく捉えたり、段落相互の関係を理解したりする力を身に付けられるように、場面や段落ごとに登場人物の心情を読み取ったり小見出しをつけたりする。 意見文を述べた文章や解説の文章などに対する自分の考えをもつために、必要な内容を押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえたりして読むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果では、A・B問題ともに全国、東京都の平均を上回り、良好な状況である。 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題では正答率が他の領域よりも低かったので、モデル文を使いながら正しく文章を書くことや、文章に表す経験を増やすことによって作文能力を向上させる。 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことを課題としている児童が多い。上記の作文指導の中で合わせて指導を行い、日常生活の中で漢字を適切に使えるように意識づけを行っていく。
	算数	<p>調新宿区学力調査の結果では、昨年度より大きく上昇した。「東京ベーシック・ドリル」等の反復復習が成果として表れた。ただし、数値は分散傾向にあり、学力状況に応じた課題設定が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「分数のたし算・ひき算」「小数のかけ算・わり算」は正確に計算することに課題がある。 <p>学問題に対して自分なりの考えがもてるようになってきた。しかしながら、考えを言葉や図を用いて説明することに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計算の基礎基本の習得。 題意を適切に把握し、筋道立てて説明すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「東京ベーシック・ドリル」や「くりかえし計算ドリル」を活用し、基礎基本の定着を図る。 これまで通り自力解決の時間を十分に確保するとともに、友達と考えを交流したり一緒に解決する場面を設定したりして、様々な見方・考え方に触れられるようにする。 考えの交流や発表の際には、考え方のよさのみ評価するのではなく、説明方法のよさも評価するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果では、A・B問題ともに全国、東京都の平均を上回り、良好な状況である。 メモの情報とグラフを関連付けて読み取る問題では正答率が他の領域よりも低かったため、基本的なグラフの書き方、読み方について復習を行う。また今後の学習においてもグラフを扱う問題では振り返りを入れながら内容の定着を図る。 基本的な計算力は向上してきたが、小数の除法の計算については仕組みの理解や計算技能において課題が見られる。ベーシックドリルなどで復習を反復することで、基礎基本の定着を図る。

音楽	<p>学 低学年では、互いの楽器の音や伴奏を聴き、音を合わせて演奏する技能が身に付いてきた。友達と関わり合って音楽活動をする楽しさを少しずつ感じ始めたところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学年では、表現に対する思いや意図をもつ児童は多いが、思いや意図を表現するための技能には個人差がある。 ・ 高学年では、思いや意図を表現するために、自分たちで楽譜を見て歌ったり、呼吸及び発音の仕方に気を付けて響きのある歌い方で歌ったりする技能の向上に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表したい音楽表現をするために必要な技能の習得。 ・ 音楽を味わって聴く力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 譜読みや発声練習等を常時活動で取り組み、繰り返し学習する。 ・ 些細な音でも聴き取れるような学習環境づくり、表現を互いに聴き合い、認め合う体験を増やしていく。 ・ 中・高学年では児童が、学習の見通しをもったり、学習をしたことを振り返って学んだことや自分の変容を自覚したりできるようにするため、グループで学習計画を立てたり、振り返ったりする活動を毎時間行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に低・中学年ではICT機器を活用し、階名読みやリズム打ちを行っているので、基礎的スキルが定着してきた。一方で、その技能を自分たちが表したい表現に結び付けていくことが課題である。 ・ 少しずつ伸びてきた歌の技能では、特に日本語のよさを生かした発音や語感を意識し、曲想に合った歌い方をグループで考えながら工夫していくようにする。 ・ 鑑賞の時間を確保し、音楽のよさを味わえるようにしていく。 	
図工	<p>学 低学年は、実際に見たり、材料に触ったりすることなど、身体感覚を働かせた表現を得意とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学年は、材料や道具などへの興味・関心が、表現活動への意欲となって発想を広げる傾向がある。 ・ 高学年は、今まで学んできたことを活用して自分なりの表現をする力が育ち始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導の工夫をし、課題をもつ児童には、休み時間等を活用して個別指導ができる時間の設定すること。 ・ 自分以外の人を感じ方や表現の違いに気付けるようにするための話の聞き方についての学習ルールの定着。 ・ 発想したことを表現につなげる見通しを人や物と関わりながら、見つけ出せるような指導の工夫。 ・ イメージを膨らませ、自分の表現を具現化する過程で、考えを明らかにし計画的に進められるような授業づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題がある児童に対して昼休みを活用し、個別指導ができる時間を設ける。 ・ 図工室のルールを明確にするとともに、鑑賞の時間を使って、児童が互いに話をしたり聞いたりする活動を充実する。 ・ 試しながら決めていく活動を繰り返す。その中で人と話したり、工夫を見付け出したる機会を増やし、活動の見通しがもてるようにしていく。 ・ ワークシートを活用して自分の考えを明らかにし、必要なものや手順を考えられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導の工夫をし、課題のある児童には、休み時間等を活用して個別指導ができる時間を設ける。 ・ 友人の話を聞いて、自分以外の人、感じ方や表現の違いに気付けるよう、学習のルールを定着する。 ・ 発想したことを表現につなげる見通しをもてるようにするため、人や物と関わりながら、見付け出せる指導の工夫をする。 ・ 自分の表現を具現化する過程で、考えを明らかにし、計画的に進められるように、学習過程を工夫する。 	
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況